

1 改築の考え方

矢口西小学校は、老朽化（校舎の過半が築40年経過）が進んでおり、令和元年度改築着手校として、全面改築に向けて、基本構想・基本計画を策定しました。

矢口西小学校の改築にあたっては、良好な教育環境を確保することを前提として、教育と地域力の新たな拠点とします。

改築にあたっての基本的な考え方をまとめるため、大田区では、令和元年度より「矢口西小学校改築計画協議会」を設置し、具体的な検討に着手しました。大田区の上位構想や矢口西小学校の教育理念の内容を踏まえながら、改築計画協議会の開催、及びワークショップの活用により、委員の皆様、児童や教職員などの学校関係者や地域の方々のご協力のもと広く意見交換を行い検討を進めてまいりました。

今後は、この基本構想・基本計画にまとめた考え方に則り、設計から工事へと取組みを順次進めてまいります。

また、改築に際して、良好な教育環境を確保することを前提として、建物の容積率を活用し、地域特性や行政需要に応じた機能を置き込む複合化について検討し、その結果、当該敷地に複合化に要する余剰面積が少ないため、矢口西小学校の改築においては複合化を行わないという結論に至りました。

大田区の基本的な学校改築の前提条件

- 体育館は、工事期間中も（既存体育館か新体育館のいずれかを）利用できる。
- 給食は、工事期間中も本校給食を継続する。
- 改築後の校庭は、既存と同等以上の面積を確保する。

2 施設整備におけるキーワード

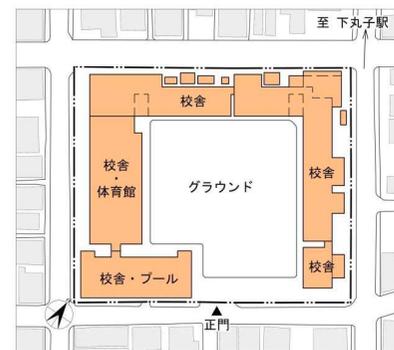
「児童」「教員」「地域」のワークショップでの「こんな学校にしたい」という意見をまとめた、新しい学校に関するキーワードになります。



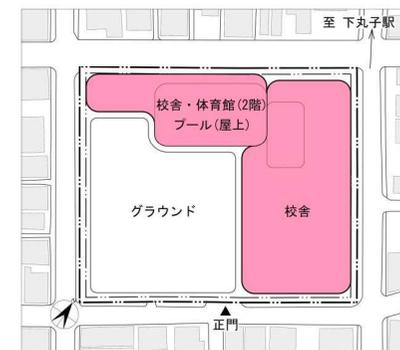
3 現状の配置 及び 改築後配置案

「新校舎完成後の環境」「工事期間中の環境」「ワークショップ」の項目より案を比較し、今回の改築にふさわしい建物配置として検討しました。小学校の教育環境の確保を第一としています。

- 校舎及び校庭については日照の良好な場所への配置とする。
- 校舎は使いやすく安全な施設となるような配置とし、校庭面積をできる限り確保する。

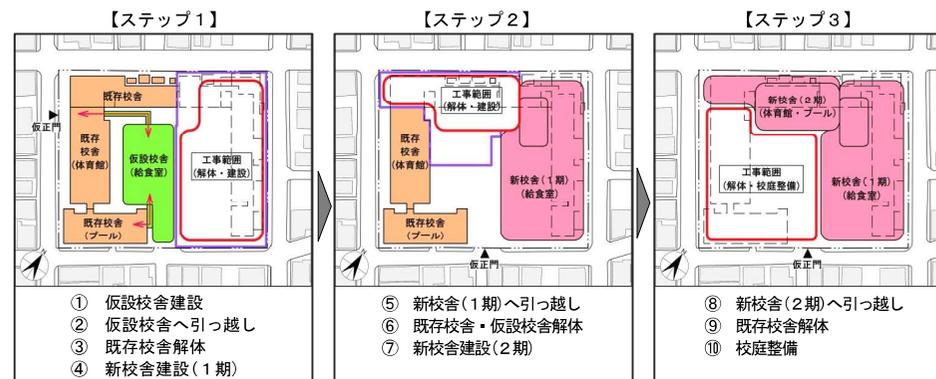


「校舎の形が複雑で、教室の位置関係がわかりづらい」「門・昇降口・教室が遠いなど、校舎内の動線が長い」



「校舎をシンプルな形状とし、使いやすく(わかりやすく)する」「工事期間中に他の案よりも早く、新校舎の普通教室を利用開始できる」

4 スケジュール案



【備考】本資料における「改築後配置案」及び「スケジュール案」については、現時点で予定しているものであり、今後の基本設計・実施設計の詳細な検討に伴い、変更する可能性があります。

(裏面)

5 ゾーニング案

改築計画協議会及びワークショップの意見から、基本計画の段階で特に重要な計画ポイントは下記になります。

また、改築に際して校舎面積が現況より増えることとなります。理由としては、現時点での推計から児童数が増えることが予測されるため普通教室が増えること、地域活動スペースが増えること、放課後ひろばを充実させることなどの要因によります。

●体育館＝避難所

水害時にも避難所として有効に機能し、1階のスペースを地域開放諸室や教室などに有効利用するため、体育館を2階に配置する。

●プール

敷地を有効利用するために、今後の設計で日除けなどの暑さ対策に配慮した上で、屋上に配置する。

●普通教室ゾーンと特別教室ゾーン

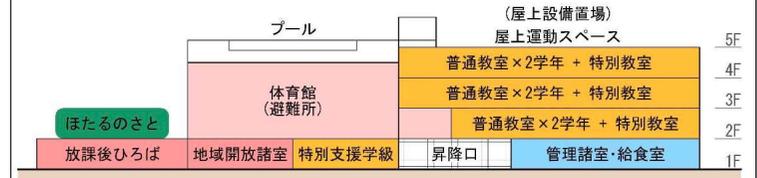
普通教室：プライベートエリア、特別教室：セミパブリックエリア、地域開放諸室：パブリックエリアを明確に分けて配置し、児童の学習環境や学校運営のしやすさに配慮しながら、地域が特別教室や地域集会室などの部屋を利用しやすい計画とする。児童が日常利用する普通教室をできるだけ多く南側に計画するため、普通教室ゾーンを優先して配置する。

凡 例										
■普通教室	■特別支援教室	■特別教室	■管理諸室	■給食室	■放課後ひろば	■地域集会・PTA	■体育館	■昇降口	■その他	■郷土資料

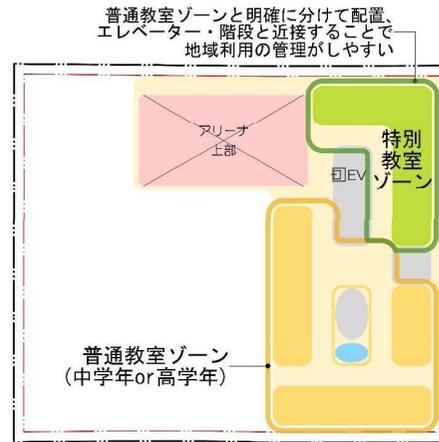


【配置・1階イメージ】

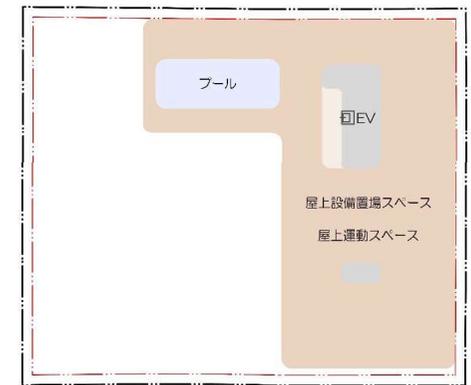
- 延床面積
約9,969㎡
- 階数
地上4階・一部5階
地下なし
- 構造
鉄筋コンクリート造



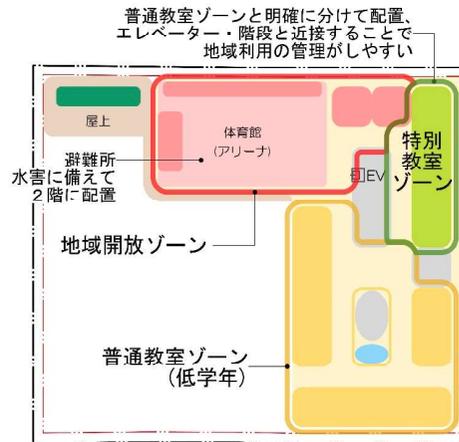
【断面構成イメージ】



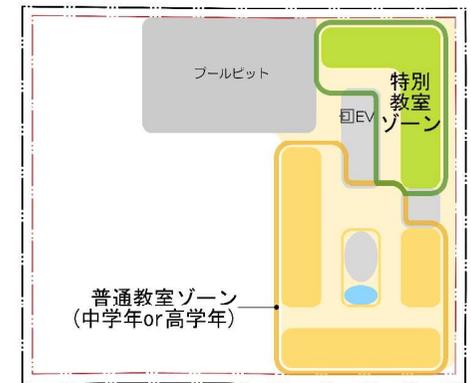
【3階イメージ】



【5階イメージ】



【2階イメージ】



【4階イメージ】

【備考】本資料における「ゾーニング案」については、現時点で予定しているものであり、今後の基本設計・実施設計の詳細な検討に伴い、変更する可能性があります。